青森県総合社会教育センター主催事業報告

弘前南高校　ワークショップ

１　ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	□ 大学進学 ■ 将来の進路 ■ 多様な価値観 ■ コミュニケーション □ その他
実施する目的	大学生との対話を通して価値観の幅を広げるとともに、将来の進路選択について深く真摯に考える。
ワークショップ終了後の目指す姿	これからの進むべき方向、あるべき態度について主体的にデザインできる。

２　要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「　選路　」

このワークショップのカテゴリーは「将来の進路」、「多様な価値観」、「コミュニケーション」で、実施する目的は「大学生との対話を通して価値観の幅を広げるとともに、将来の進路選択について深く真摯に考える」であることから、テーマは「選路」としてワークショップを進めます。

このテーマとした理由は、妥協ではなく、誰かが敷いたレール(線路)でもなく、「自分の意志(＝自分が納得する)」でこれからの選択をし、自分なりの「路(みち)」をつくっていってほしいと考えたからです。この理由を踏まえ、ワークショップを通して高校生と達成したい２つのゴールがあります。

①自分がこれから大きな意思決定に直面することを自覚し、真剣に悩み、考える。

②「自分の意志」で決めるという過程を、これからやってくる大きな選択の１つである

「文理選択」を例に経験する

大学生はこれらの 2 つのゴールを軸に高校生と関わり合い、ワークショップ終了後の目指す姿である「これからの進むべき方向、あるべき態度について主体的にデザインできる」の達成を目指して、ともに「選路」について考えてほしいです。

３　参加生徒数

第１学年　１６５名

４　報告

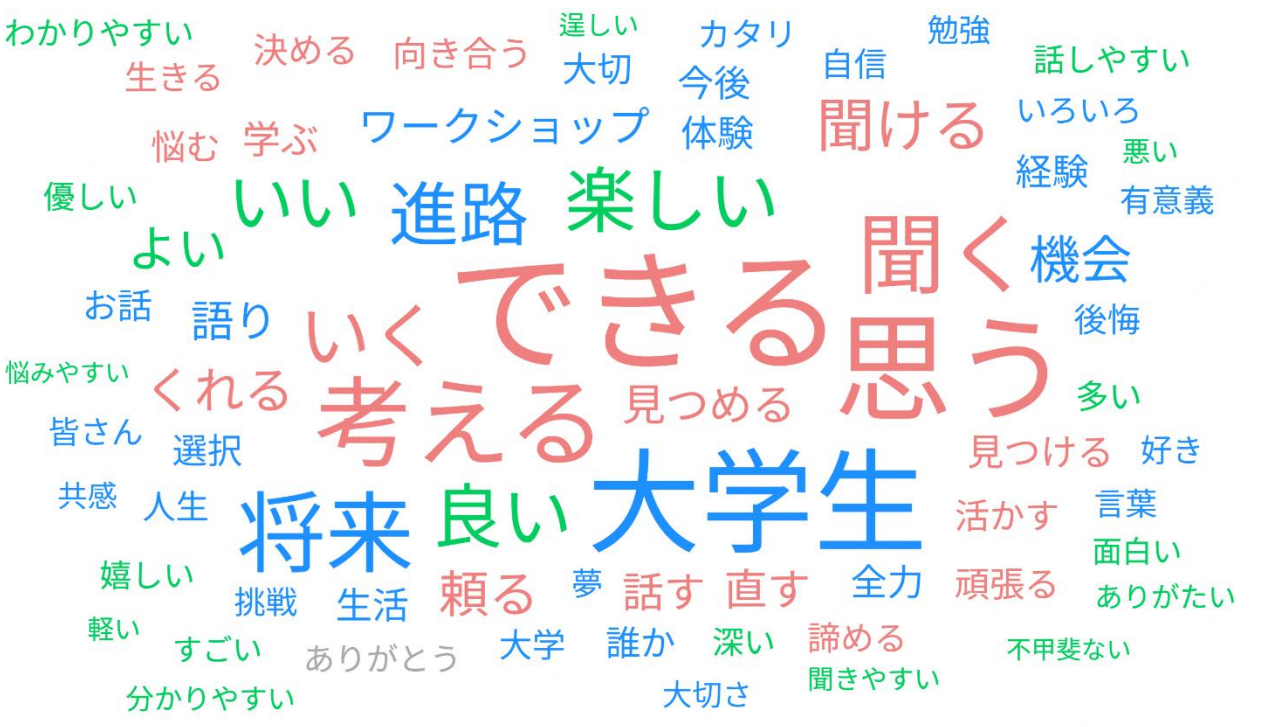
（１）参加生徒へのアンケート結果（有効回答数１６３名、有効回答率９９．０％）

ア　有意義度調査

１　ワークショップは有意義でしたか？	３．８６
２　ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	３．８６
３　ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	３．８５

※アンケートはすべて４件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ　自由記述によるテキストマイニング分析



今回のワークショップは、多くの参加者にとって将来や進路を見つめ直す貴重な機会となり、大学生の親しみやすい語りや体験談によって緊張が解けたため質問しやすい雰囲気の中で具体的な進路や大学生活の実態、学問や職業の多様性について知ることができ、結果として将来の選択肢が広がり新たな興味を発見する機会になったと多くの人が評価している。

（２）学校へのアンケート結果

１　ワークショップの満足度は？	5
２　学校としての実施目的の達成度は？	5
３　生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは５件法で実施。数字が多いほうが高評価。